

総合科学技術・イノベーション会議 第125回評価専門調査会
議事概要

日 時：平成30年2月1日（木）14：01～15：52

場 所：中央合同庁舎第8号館 特別中会議室（8階）

出席者：久間会長、原山議員、上山議員

荒川委員、上野委員、梅村委員、尾道委員、桑名委員、

白井委員、鈴木委員、関口委員、菱沼委員、福井委員

欠席者：小谷議員、橋本議員

天野委員、小澤委員、門永委員、北村委員、庄田委員、

角南委員、松橋委員、安浦委員

事務局：山脇統括官、生川審議官、進藤審議官、星野参事官、

柳審議官、板倉企画官

説明者：子安理事（理化学研究所）

岸本基礎研究振興課長（文部科学省）

- 議 事：1. 平成30年度における評価専門調査会での調査・検討について
2. 特定国立研究開発法人の次期中長期目標（案）に対する文部科学省及び理化学研究所へのヒアリング等について（非公開）
3. その他

（配布資料）

- 資料1 平成30年度における評価専門調査会での調査・検討について
資料2 特定国立研究開発法人（理化学研究所）に対する評価等の流れ
資料3 第124回評価専門調査会議事概要（案）※委員のみ

（参考資料）

- 参考資料1 総合科学技術・イノベーション会議評価専門調査会名簿
参考資料2 総合科学技術・イノベーション会議評価専門調査会研究開発法人部会 構成員一覧
参考資料3 平成30年度評価対象研究開発の概要
参考資料4 特定国立研究開発法人の見込評価等の結果に対する総合科学

技術・イノベーション会議の意見について

(机上資料) ※委員のみ

机上配布資料 国の研究開発評価に関する大綱的指針

(平成28年12月21日 内閣総理大臣決定) (冊子)

議事概要：

【久間会長】 定刻になりましたので、ただいまから第125回評価専門調査会を開催いたします。御多忙の中、御出席いただきましてどうもありがとうございます。

本日は、小谷議員、天野委員、小澤委員、門永委員、北村委員、庄田委員、角南委員、松橋委員、安浦委員は御欠席で、荒川委員が少しおくれて出席する予定です。

本日の議題ですが、議事次第に示していますとおり、1つ目の議題は、「平成30年度における評価専門調査会での調査・検討について」、2つ目の議題は、「特定国立研究開発法人の次期中長期目標（案）に対する文部科学省及び理化学研究所へのヒアリング等について」、3つ目の議題は「その他」となっております。

それでは、事務局から配布資料の確認をお願いします。

【板倉企画官】 それでは、議事次第の裏面を御覧いただきたいと思います。配布資料の一覧になってございます。

資料の1、資料の2のシリーズとしまして1から5がございまして、資料2-3、2-4、2-5につきましては委員のみに配布させていただいております。また、資料3につきましては議事概要になってございます。

参考資料としましては1から6までを配布させていただいております。

また、机上配布資料としまして、大綱的指針の黄色の冊子プラス委員のみにヒアリングの進め方というものを1枚配布させていただいております。

不足等ございましたらお申しつけください。よろしく願いいたします。

【久間会長】 どうもありがとうございました。

本日の調査会の議題のうち、議題2につきましては、理研の次期中長期目標の期間に向けた研究開発の方向性、業務運営上の見直しなども含めた検討段階の内容が含まれております。対外的にオープンとなることで理研の研究開発等の競争力を阻害しかねないことから、非公開とさせていただきます。つきましては、議題1に続いて議題3を先に取り扱った後、議題2に入ります。議題2

に入りましたら、一般の傍聴者に退席をお願いすることとなりますので、御了承いただければと思います。

それでは、1つ目の議題である平成30年度における評価専門調査会の調査・検討について、事務局から説明をお願いします。

【板倉企画官】 それでは、事務局より議題1に関しまして説明をさせていただきます。

使う資料としましては、資料の1と参考資料の3になります。御準備のほどよろしくお願ひいたします。

まず、資料の1に基づきまして説明をさせていただきます。

資料の1、30年度における評価専門調査会での調査・検討についての案でございます。説明事項としては3点ございます。

まず1点目、国家的に重要な研究開発の評価の実施予定案件ということで、来年度につきましては主に3点実施をさせていただきたいと思っております。

まず1点目、革新的新構造材料等技術開発につきましては、こちらにつきましては概要資料としまして参考資料の1ページ目も御覧いただきたいと思ひます。こちら、平成25年に事前評価を行ひまして、26年度にそのフォローアップ、28年度には第1段階のステージゲート評価を行っております。実施としましては、平成26年11月のフォローアップにおきましてステージゲートを経済産業省が行った時点で、評価専門調査会において、その確認を行うということが決定されております。そのため、第1段階のステージゲート評価を28年に実施いたしまして、来年度につきましては第2段階のステージゲートの評価の確認というものをさせていただきたいと思っております。

参考資料の1ページ目の下の方に開発スケジュールというものがついております。本研究開発につきましては、ステージゲートを3回設けておりまして、今回は、その真ん中に当たります第2段階のステージゲートを行う段階になっている。今年度にステージゲートを行った評価結果につきましては、来年度、評価専門調査会で確認を行わせていただきたいと思っております。そちらにつきましては、来年度の6月、7月の2回にかけて確認をさせていただきたいと考えております。

2点目、フラッグシップ2020プロジェクト、いわゆるポスト「京」の開発につきましては、こちらにつきましても、参考資料の2ページ目を参考に御覧いただきたいと思ひます。

こちらにつきましては、平成25年12月に事前評価で、平成27年に再評価を行っております。また、平成28年3月には基本設計の評価の確認を行わせていただいております。平成27年1月の再評価におきまして文科省における中間評価の確認をし、本会議において中間評価の実施を判断するというこ

が決定されておりますので、今回、中間評価を30年度に文科省が行うのに合わせまして中間評価を行わせていただきたいと思います。

こちらにつきましては、参考資料の2ページ目を御覧いただきたいと思います。実施スケジュールとしては、真ん中のあたりの線表みたいなものを御覧いただきたいと思いますけれども、平成26年度から開始しております。今、試作・詳細設計の段階にシステムとしては入っております。黄色の星印があるとおり、平成30年度につきましては、秋頃に中間評価を踏まえて製造段階への移行を最終的に判断する段階に来ておりますので、その前の段階として、こちらの本会議の方で中間評価を行わせていただきたいと思いますと考えております。この中間評価につきましては、実施時期としまして9月、10月、11月の3回にかけて中間評価を行わせていただきたいと思いますと考えております。

めくっていただきまして、資料1の2ページ目ですね。もう一点は、31年度概算要求に係る事前評価を行わせていただくものです。こちらも毎年度行っているものでして、8月末に出てきた概算要求のうち、国家的に重要な研究開発の事前評価を行わせていただくものです。こちらにつきましても9月、10月、11月の3回を予定させていただいております。

ということで、研究開発の評価としましては、6月、7月の2回と、9月、10月、11月の3回を来年度は開催して行わせていただきたいと思います。

2点目、国家的に重要な研究開発の評価の進め方についてでございます。

こちらにつきましては、昨年度の本会議において、評価についてというのを改定させていただきまして、評価検討会を廃止して評価専門調査会のみで評価を行うということで今年度実施させていただきました。今年度実施したことに関しまして実績を踏まえまして、来年度の実施の改善を図っていきたく思いますので、改善のポイントにつきまして、何か今の時点で委員からの御意見を頂きたいと思っております。

改善のポイントとしましては、今回、評価専門調査会、主に2回で集中的に評価の議論をさせていただきましたけれども、議論のための十分な時間がとれたかどうか。また、新たな視点に基づきまして大局的・俯瞰（ふかん）的でのCSTI評価の視点を行ったのですが、それが十分であったかどうか。こちらにつきましては、本資料の4ページ目、5ページ目、6ページ目に、今回見直した視点というのをつけさせていただいております。4ページ目が事前評価、5ページ目からが中間評価になるもので、これまでの事前評価の視点と今年度行わせていただきました視点を対照表で示したものです。これらの点につきまして、今回実施させていただきましたけれども、何か改善すべき点があるかどうかにつきまして、できれば見直していきたくないと事務局としては思っております。

ます。

また2ページ目に戻っていただきまして、こういった調査の視点を設定する前に、研究開発概要の説明が十分であったかどうかという点でも改善を図っていきたいと思っております。また、実施府省で行った評価結果の妥当性を確認するというのを大きな評価のポイントとしているのですけれども、その関係で、実施省庁の評価委員の座長に来ていただきましてヒアリングを行わせていただきました。このヒアリングにつきましても、時間の関係もあったのですが、十分に見解を聴取できたかどうかという点についても改善を図っていきたいと思っております。また、評価の取りまとめについても、十分な時間がとれなかったという点もあるので、そこも十分確保していきたいと思っております。

参考としましては、今年度実施させていただいたスケジュールを示したものです。

事務局としましては、特に今回、2回の集中討議をしましたが、9月の評価の進め方や調査事項の設定の段階で、もう研究開発の概要について、この場で実施府省からの説明を、特に中間評価はさせていただきたいと思っております。また、大局的・俯瞰（ふかん）的という点では、特に評価を実施している府省での評価の妥当性を確認するといった点に重きを置いて、その上でのC S T I評価の俯瞰（ふかん）的な見方というのを検討していきたいと思っております。

また、実施府省での評価委員の座長に来ていただく、ヒアリングを行うという点についても、あらかじめ評価、説明していただくポイントを事前にお示ししまして、その点について特に説明を頂くといったような方法の改善を図っていきたいと思っております。

これらについて、何か事務局としての改善につきまして、委員から御意見を頂きたいと思っております。

3点目ですけれども、3ページ目を御覧いただきたく思います。

3点目は、国の研究開発評価に関する大綱的指針のフォローアップについてでございます。

平成28年12月に大綱的指針を改定させていただきました。約1年を経過いたしましたので、そのフォローアップを行いたいと思っております。こちら、大綱的指針にもフォローアップを行うという規定を入れさせていただいております。

フォローアップの調査につきまして、実施時期としましては30年3月頃から、事務局の方でまずは関係省庁、関係研究開発機関のヒアリングを行わせていただきたいと思っております。調査項目としては、評価の体制や実績、あと大綱的指針の改定に基づく評価指針への反映状況、また研究開発プログラムの実施状況などについて、事務局の方でまずはヒアリングさせていただきたいと

思っております。これらにつきまして、6月に予定いたします調査会で事務局の調査結果をお示ししまして、また最終的な取りまとめのような形をとってくか、その取りまとめにつきまして御意見を頂きたいと思っております。30年度中に取りまとめを行いまして、各府省にフィードバックをし、この大綱的指針の実施の浸透を図るということを進めていきたいと考えております。

事務局からの説明は以上です。

【久間会長】 ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

上野委員、どうぞ。

【上野委員】 御説明ありがとうございます。

国家的に重要な研究開発の評価の進め方の改善点について御意見をということですので、コメントを述べさせていただきたいと思います。資料で申し上げますと、資料1の2ページ目のところになります。

今年度、国家的に重要な研究開発の評価の進め方が変わりましたがけれども、感想としましては、やはり圧倒的に時間が足りなかった、回数が足りなかったということを感じます。説明を聞いて、直後に思ったことを言うというのは内容に限界があると思うのですが、今回、会議は2回ということで、1回目に説明を聞かせていただいて、その場で意見交換をして、2回目には評価報告書の案が上がってきて、初めて見るのですが、もう評価報告書案という、ほぼ完成版で、意見を言うにしても修正できる範囲というのは限られていて、それで終わる、2回ですとこういうことになります。

やはりよい評価報告書ができないと、CSTI評価は屋上屋ではないか、あるいは意味がないのではないかという批判につながってしまうおそれもあります。今回のこの評価の進め方の改定は、効率化というのも目的ではあったのですけれども、充実させるというところも目的でしたので、進め方については改善が必要なのではないかと思います。

回数は、できれば3回はある方がいいと思います。少なくとも評価報告書の案について議論する時に、もう最初から完成版に近いものが上がってきて、議論1回だけというのは避けることが必要ではないかと思います。

【久間会長】 事務局、いかがですか。

【板倉企画官】 それにつきましては、9月、10月、11月の3回、回数を増やすというのは、お忙しい委員の皆様方なので、なかなか難しいかなと思えますが、例えば9月の段階で研究開発の概要とかヒアリングを実施させていただくとか、10月、11月で評価結果案を取りまとめっていくといった時間の使い方を、もう少し時間をとれるように改善していきたいと思っております。

【久間会長】 よろしいですか。

尾道委員、どうぞ。

【尾道委員】 今の評価方法については上野さんと同じ意見で、評価報告書の案をまとめるところが少し忙しかったなど、そこは時間で工夫していただきたいなと思います。

あともう一点、ここで議論になったのが評価案件の選択方法のところですね。当初はある程度、200億と、その年度の30億円以上でございましたが、そこで事務局の方でかなり絞り込んだ形で御紹介したところ、こちらの議論の中で、もう少し幅広く見たいということで、平成30年度の予算概算要求の中から事務局の方が苦労されて各省庁から新規研究案件を集めて、それをリストアップしたものをここで議論したと思います。やはりここでは大局的・俯瞰（ふかん）的観点でのCSTI評価という視点が非常に重要なので、各省庁からの新規研究開発案件をある程度網羅した大まかなリスト、その中では省庁ごとに全体の偏りがいいのかとか、あるいは重複投資がないのかとか、そういったことも含めて我々がある程度確認して、評価案件を絞り込むことができるので、そこが手順としては非常に重要であり、来年度以降も継続していただきたいと思います。

ただ、これは事務局が資料を準備する上で、本調査会でも、上野さんだったかな、やはり同じような指摘をされていたと思いますが、事務局が資料を準備する上での基準とか評価手順みたいなものをもう少し明確にしてあげた方が、事務局がこういった情報を各省庁から収集するための労力も軽減されるし、効率的ではないかというふうに考えます。予算概算要求の重点ポイントから事務局が事業を抽出して、そしてCSTIの評価専門調査会で議論することを手続として例えば定めるとか、そういったことをある程度明文化してあげるようなことをしてあげれば、もっと事務局がやりやすいのかなというのがありました。また、本調査会で用いた研究開発新規案件のリストについては平成30年度の要求額の数字しか示されていませんでした。概算要求の時点では総額まで書いていない、検討中の案件もすごく多いとは思いますが、案件の規模を知るでは、ちょっと表の工夫も含めて、もう少し来年度は改善していただきたいと思います。

【久間会長】 事務局いかがですか。

【板倉企画官】 御指摘の点、事務局で検討いたしまして、来年度、6月か7月には、新たな評価方法とか進め方につきましてお示しをしたいと思います。ありがとうございます。

【久間会長】 どうもありがとうございました。

ほかに御意見等ございますか。

白井委員、どうぞ。

【白井委員】 今、いろいろ手続についてのお話が出ましたけれども、もう一点追加です。前回ヒアリングしたときに、各省庁からの説明と、我々が聞きたいことのポイントがずれていたと思うんですね。例えば、我々がこれはプログラム評価対象ではないかと考えているのに対して、省庁の方はプロジェクト個々の評価についてのお話をされていたことがありました。初回に評価全体の進め方と評価の視点を決定して、それからヒアリングになると思うのですが、そのときに、こういう評価をしていきたいという考え方をはっきり省庁に伝えていただいて、無駄のないヒアリングができるようにすることが必要なと前回思いました。その点だけ指摘させていただきたいと思います。

【久間会長】 ありがとうございます。

ほかに御意見等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

事務局は今回頂いたご指摘内容を踏まえ、来年度の評価方法改善に生かしていただきたいと思います。また、フォローアップについては事務局で調査し、結果を次回の調査会で提示するようにお願いします。

それでは、冒頭に申し上げましたとおり、先に議題3に移ります。

まず、前回会合の議事録案です。前回の第124回評価専門調査会の終了後、事務局から照会が行われ、各委員の意見を踏まえ修正した最終案が資料3で提示されております。各委員には事前配布されておりますので、内容を御確認いただけていると存じますが、更なる修正意見等ございましたら、この場でお願いします。

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。それでは、本議事録案については、各委員御了承されたものとして取り扱わせていただきます。

事務局からほかに何かありますでしょうか。

【板倉企画官】 それでは1点、次回の第126回評価専門調査会ですけれども、先ほど申したとおり、年度明けた6月頃を予定しております。そのため、3月頃には各委員の6月、7月の御予定を確認させていただく予定ですので、よろしくをお願いいたします。

事務局からは以上です。

【久間会長】 ありがとうございました。

以上で、本日予定していました議事は全て終了いたしました。

非公開資料を除き、本日の配布資料と前回の議事録は公表いたしますので、

御承知おきください。

最後に、事務局から連絡事項はありますか。

【板倉企画官】 それでは、2点ほど御連絡させていただきます。

まず1点目は、委員の任命の関係でございます。

今月中旬までに、該当委員へは事務局の方から御連絡をさせていただく予定にしております。また、その関係で、委員の交代や今年度の各委員の御慰労も兼ねて、懇親会を3月の下旬頃に開催したいと思っておりますので、また別途事務局の方から御案内をさせていただく予定です。

2点目は、黄色の冊子は机の上に置いたままにさせていただきたいと思います。また、郵送を御希望される方は、封筒にお名前を御記入の上、そのまま残しておいていただければと思います。また、電子データで御入り用でしたら、事務局に御連絡ください。御支援をよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

【久間会長】 委員の交代時期でもあります。事務局からの説明にもありましたように、次期委員体制については、2月中旬までに任期満了対象者へのお知らせをするということでございますので、よろしくお願いいたします。

退任者につきましては、2年間本当に御多忙のところ、この評価専門調査会に御出席いただくと共に、貴重な御発言を頂き、心から御礼申し上げます。

それでは、以上をもちまして本日の委員会を閉会といたします。

どうもありがとうございました。

—了—